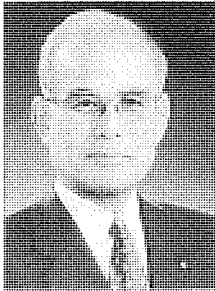


## □基調講演



演題

「ロータリーの新しい展望」

国際ロータリー第2710地区  
防府ロータリークラブ  
パストガバナー

南 園 義 一

### プロフィール

所 属	R I 第2710地区・防府ロータリークラブ
職業分類	正会員・職業分類（胃腸病院）
生年月日	1929年（昭和4年）12月1日
現住所	山口県防府市国衛2丁目6-22
学 歴	1955年 千葉大学医学部 卒業
職 歴	1956年 千葉大学医学部 第二外科入局 1962年 千葉大学医学部 文部教官 1966年 防府胃腸病院開設 1979年 財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院院長 1998年 財団法人 防府消化器病センター 理事長 2000年 財団法人 防府消化器病センター 顧問
団 体 歴	防府医師会長（1994～96年） 山口県医師会監事（1996～2000年） 山口県医師会裁定委員（現） 山口県国際交流協会理事（現） 防府市国際交流団体連絡協議会会長（現） 防府市文化振興財団評議員（現）
学会関係	日本外科学会 認定医・指導医 日本臨床外科学会 評議員 日本消化器病学会 指導医 日本消化器外科学会 指導医 日本消化器内視鏡学会 指導医 その他諸学会、専門医、指導医
経 歴	1997～98年度 R I 第2710地区ガバナー 2000年11月 R I 第2730地区会長代理 2001年 1月 R I 国際協議会研修リーダー（アナハイム） 2001～03年度ロータリー財団地域 コーディネーター（第3-4ゾーン）

ご紹介いただきました南園でございます。伊藤ガバナーから過分なご紹介を賜り、感謝申し上げます。本日は第2520地区の年次大会がこのように盛大に開かれることに対しまして心からお喜び申し上げます。今回の講演を受けるに当たりまして伊藤ガバナーから沢山の資料をお送りいただきまして誠に有難う御座いました。

ご承知の様に、この水沢は私の住む山口県の防府とは大分距離が離れております。月信等で拝見しますと北上夜曲で有名な北上川が流れる街で大変郷愁が感じられ、私にとりましては憧れの街であります。

と申しますのも、私はもともと鹿児島生まれでありまして、右に桜島、左に開聞岳を眺めながら小学校時代を過ごしました。その後、大学を出て防府に移り住んでから40年になりますが、川端康成の雪国等を読みますと北国への憧れがますます強くなりまして、石川啄木や宮沢賢治の北国の文学や遠野物語等の民話に強く惹かれるものがあります。皆さんはこのような素晴らしいところで生活され、活躍されているわけですが、私にとりましては羨ましい限りです。

本日は、新しいロータリーの展望という題でお話し申しあげますが、大変難しい課題であります。しかし、今、21世紀を迎え、時代は激変しつつあります。20世紀を反省してみましても文化や科学等も飛躍的に進歩いたしました。全世界的に人口のアンバランスや貧困、飢餓、疾病そして環境の問題等たくさんの方が山積しています。そして、その間に私たちにとって一番大切な豊かな人間性が失われて来たように感じます。

そのような中で、昨年9月ニューヨークで同時多発テロというショッキングな出来事がおこりました。全世界に人々を一辺に不安と混乱した気持ちにおとしいれました。そして、民族、宗教、文化、政治、経済全般にわたって見直してみたい

という気持ちに皆がなりました。特に、人間性の在りかとか尊厳について現在の社会の中でもう一辺考え直してみる必要があるのではないのでしょうか？

私は先週、4月18日にニューヨークの国連本部に行って参りました。ロータリー財団の招待で第一回の世界平和奨学生の発表セレモニーに参加しました。その時、国連本部は大変な警戒振りでした。まるで国際空港のようにX級のセキュリティー装置を通らねばなりません。全世界に平和のシンボルである国連本部が厳重な警戒システムに守られている現状にがっかり致しました。この様な時に、私たち国際ロータリーが世界の紛争解決と平和のために働く人々の教育のために全世界7ヶ国ロータリーセンターを設立したことは素晴らしい快挙と言わねばなりません。

このように、国際ロータリーは1905年創始以来、私たちの社会に最も必要なものは人と人との間、国民と国民の間に理解と善意と信頼を持って友情の橋を架け、世界理解と平和を究極の目的として人類への奉仕活動を約100年続けて参りました。

ここでロータリー100年の歴史をふりかえってみますと、私は四つの時代に分けられると思います。最初の25年間の1930年頃まではロータリー理念や組織の基本を確立した時代であり、四大奉仕部門もロータリー財団の基礎もこの時代に出来あがっています。次の1955年までは第二次世界大戦を経て苦難の時代でしたが、しかし、この間1940年にはキューバの国際大会で正義、自由、人間性の尊重を高めようとの宣言が決議されていますし、全世界の文部大臣や文化相を集めて開かれたロンドンでの会議は第二次大戦後のユネスコや国連の基礎作りをしたことになっています。

第三期の1955年以降はロータリーの発展期であり、1965年同額補助金プログラムやGSEの発足、1978年3Hプログラム、1985年ポリオプラスプロ

グラムと言うようにロータリーは飛躍的に発展していきます。そして、現在は1947年以来成功を取めた国際親善奨学金プログラムを中心として世界平和奨学金プログラムやCAP（地域社会援助プログラム）も始まっています。

私はこのようなロータリー活動の基本はあくまでもロータリーの四大綱領にあると思っています。四大綱領こそロータリーの目的であり第一項でロータリーの基本理念である思いやりの心を持って人と人とのふれあいを広め、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕と実り多き奉仕活動が展開されて行くものと思います。

そして、ロータリー活動の基本単位はクラブであります。夫々のロータリアンが所属するクラブこそが国際ロータリーの構成単位であり、2000年に決議された国際ロータリーの使命にも加盟クラブによるロータリーの綱領の遂行を支援することであると明記されています。

さて、このような国際ロータリーの活動をプログラムや資金の面で協力、支援し、表裏一体となって活動しているのがロータリー財団であります。現に、ロータリー財団の使命は、地域レベルや国際レベルでの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じてロータリー綱領と使命を遂行し、かつ世界理解と平和を達成しようとする国際ロータリーの活動を支援することであるとされています。まさにそうではありますが、現在、ロータリー財団の目標は教育的活動、それにポリオプラス、キャンペーンの三つであります。

教育的プログラムは国際親善奨学金プログラム、世界平和奨学金プログラムとGSE等がありますが、日本の各地区の皆さんはとて教育的プログラムには熱意を持って活動されています。

国際親善奨学金は1947年、ポールハリスの逝去を追悼して集まった基金をもとに始まったものですが、全世界の国際奨学生の学友は3万人を超え

ていますし、日本の緒方貞子さん等はRIの本部等でもとても尊敬されています。

今年から始まった世界平和奨学生は全世界で約70名の学生がすでに勉強を始めていますが、日本では東京三鷹の国際基督教大学がロータリーセンターとなっています。この世界平和奨学金プログラムはロータリーの長年の夢であったロータリー大学の構想が実ったもので、これからの21世紀をリードする世界的指導者がどしどし育って来ることでしょう。パイオニア地区としての協力も、日本では初年度22地区でありました。

さて、問題は人道的プログラムであります。相互の国際性やロータリアンの積極的参加を奨める人道的プログラムは特に同額補助金としての利用が近年飛躍的に増加してきています。一昨年は前年の40%以上増加し、4,000件を上回り2,310件が承認されました。そのために、WF（国際財団活動資金）がバランスを失ってしまいました。このためにWFとDDFの割合を2003年度から見直し、50対50にし、組織やプログラムをもっと簡素化して、効率の良いプログラムにすることになりました。年度始めには発表があるとおもいますが、2005年の100周年に向けてさらに良いプログラムを作り、より効果的な活動が発展していく事が期待されています。

具体的には、今まで沢山あった人道的補助金プログラムを3つに分け、地域補助金、個人向け補助金、マッチンググラントの3部門のプログラムになると思います。日本でも人気のあるCAP（地域社会援助プログラム）は、初年度全世界で623件の承認があり、日本でも66件が承認されました。このCAPは今後、地域補助金のなかに分類されると思いますが、国際的奉仕プログラムであるマッチンググラントと私達地元の地域社会援助プログラムとしてのCAPは、これから益々発展していくことでしょう。

さらに、ポリオプラスキャンペーンですが1985年に発足したこのプログラムが2005年を間近にしていよいよ大詰めを迎えています。ポリオ発症は99%なくなっていて、1988年には125ヶ国、35万人の発症例が2002年1月には10ヶ国461症例になっています。もう一步のDINやMOPUP活動が必要とされています。そのためには、後、ロータリーとしては8,000万ドルが必要になっています。どうぞ皆様のご協力をお願いします。全世界で病気で苦しんでいる子供たちを助けると言う画期的なプロジェクトを全てのロータリアンで共有したいと思います。

さて、そろそろ結論を言わなければならない時間となりましたが、あと数年でロータリー100周年を迎えるわけでありました。

2004年には国際大会が大阪でありますし、翌年の2005年にはシカゴで100周年記念の国際大会が華々しく開催される予定です。

過去のロータリーの歴史をふまえ、本質を忘れることなくしかも前向きに考える節目の年として大切に考えたいと思っています。

このロータリーの100周年記念事業は沢山あり、そろそろスタートを切ったものもありますが、私は次の3つだけをお願いしておきたいと思います。

1つは、超我の奉仕ボランティア週間というプログラムであります。この超我の奉仕という理念はロータリーのモットーであります。外国のロータリアンは超我の奉仕をロータリアンとしての前提条件として考える傾向がありますが、日本のロータリアンは奉仕の目的として捉えるように思われます。据え方、考え方は違っても基本的には同じではないかとも私は考えていますが、このような節目の時期にもう1度皆で超我の奉仕を考え、実践してみるのも意義あることかも知れません。

第2に特徴のある地域社会活動に取り組んでほしいということです。100周年の社会奉仕活動の

一環として地域の例えば岩手県のあるいは水沢の地域で必要なニーズのある社会奉仕事業の目標を立てて、社会奉仕として実践して頂ければ素晴らしいと思います。

第3は世界平和セミナーの開催であります。世界の平和についてみんなで考えよう、地域の中であるいは国際的に私達が平和のために何が出来るのかを話し合ってみる事も大変重要なことです。

全世界120万人のロータリアンが平和のために何が出来るのかを考え、力を合わせて実践すれば素晴らしい成果があがるものと思います。

私はアナハイムの国際協議会で朝食後のプレゼンテーションとして話をする機会があったのですが、その時日本の象徴である“桜”の話を致しました。日本の文化の象徴と言われる桜に対する日本人の心情は外国の人にも良く分かってもらえたように思います。

岩手の出身である新渡戸稲造の書いた「武士道」にも“桜”の話が出て来ます。「われ太平洋のかけ橋にならん」と言った新渡戸稲造の心意気を思い出してみたいものです。

先日、「ロータリーの友」4月号に伊藤ガバナーがホームクラブの水沢東ロータリークラブのバナーの話を書いているのを拝見致しました。バナーには、後藤新平伯の「人のおせわにならぬよう、人のおせわをするよう、そしてむくいをもとめぬよう」と書かれているそうですが、まさに、超我の奉仕を実践されているわけですので、非常に感銘を受けました。

最後になりましたが、地区内各クラブの皆様の益々のご活躍を心から期待したいと思います。まず、ロータリーを知ること、本質を理解して下さい。本質を理解するともっと活力が出ます。そして、実行、実践して下さい。地域社会や国際社会で皆さんの活躍はやがてロータリーの発展につながって行くことと思います。頑張ってください。

ご静聴有難うございました。

